

「よかれと欲っていたことが」 6月号 ～「こころの罪」を少し開いてみませんか～

車を運転中、前に行く車がパンクしたまま走行していることに気づきました。このまま走行して万一のことがあったら大変、何とかしてパンクしていることをドライバーに知らせる方法がないかと考えました。しかし、その方法も見つからず諦めかけていた時、運よく信号が赤に変わり前の車が停車しました。「今だ」と思い、車を降りてドライバーに駆け寄り「後ろタイヤがパンクしていますよ」と伝えました。するとドライバーの方は、いきなり窓の外に現れた私を見て驚いた様子でしたが「分かっています」と一言。そして「今、修理工場へ向かっているとこゝろです」と言いました。パンクしていることを知らせることができて「よかった」と安心していた私は、その言葉にハッとさせられました。

その時の私は、相手のことを思っただけで伝えたつもりだったのに、相手の立場より「早く知らせたい」という自分の思いが優先していたのです。この時、相手の方は「早く修理工場に行きたい」と急いでいたのかもしれない。あるいは、すでに他の人からも同じようなことを言われていて、ストレスとなっていた可能性もあります。そこへ相手の心境も考えずに親切心を押しつける私に苛立ちを覚えたのかもしれない。

このように、よかれと欲っていたことが気づかないうちに相手を不愉快にしてしまうこともあります。自分の考えを伝えたいとき、ただ伝えたいことだけを話すのではなく、相手の立場や気持ちを考えながら話せたら、相手に好意的に伝わり、良好な人間関係を築いていくことができるのではないかと思います。相手の人

格や立場を尊重し、相手とコミュニケーションをとることの大切さに改めて気づかされた出来事でした。

